

平成 27 年度 鴨川市社会教育委員会 会議録

1. 日 時 平成 27 年 6 月 25 日（木）開会：午後 1 時 30 分 閉会：午後 4 時 13 分

2. 場 所 天津小湊支所 3 階会議室

3. 出席者 次のとおり

【委 員】 蒔苗 茂 委員、渡邊 隆 委員、鈴木 淳 委員、仲澤 博 委員、
酒井 賢一 委員、川名 敏昭 委員、石田 三示 委員、長谷川 清美 委員
立野 慶子 委員

※欠席（繁田 進 委員）

※途中退席（蒔苗 茂 委員）

【事務局】 野田教育長、石井課長、入江課長補佐、高橋社会教育主事、
滝口社会教育指導員、鈴木青少年係長、加藤社会教育係長、
石川文化振興室室長兼課長補佐、洲永主査、四宮主査、鈴木主任主事

4. 傍聴人 なし

【委嘱状の交付】

前委員（10 名）の任期満了に伴い、新たに 10 名の委員へ。

（ただし、欠席の繁田委員は後日交付）

野田教育長から各委員へ（委嘱状読み上げ 石井課長）

1. 開会

鴨川市社会教育委員会運営規則第 6 条の規定に基づき、会議の成立報告。

2. 教育長挨拶

野田教育長

3. 議長及び副議長の選出

※野田教育長が仮議長となり、委員の互選により、議長に石田三示委員、副議長に
仲澤博委員が選出

4. 議長、副議長挨拶

5. 報告

（石田議長）

それでは、これから次第5の報告、及び次第6の議題に入りますが、議事録署名人の選出をお願いしたいと思いますが、私から指名をさせて頂きたいと思います。

それでは鈴木淳委員をお願いいたしますが、ご異議はございませんでしょうか。

『異議なし』の声

（石田議長）

ご異議がないようでございますので、鈴木委員、よろしくお願いします。

また、以後の発言につきましては、挙手のうえ、議長の許可を得た後に発言をお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第によって進行させて頂きます。次第5の報告に入ります。

《報告1：平成26年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業報告について》

（石田議長）

報告の1『平成26年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業報告』につきまして、事務局より説明をお願いしたいと思います。

●説明

- ・社会教育係及び青少年係関係（鈴木青少年係長）
- ・文化振興室関係（石川文化振興室室長兼課長補佐）
- ・図書館関係（洲永主査）
- ・公民館関係（四宮主査）
- ・社会教育関係事業補助金交付実績（加藤社会教育係長）
- ・社会教育関係事業補助金交付実績【文化振興室】（石川文化振興室室長兼課長補佐）
- ・施設利用状況関係（入江課長補佐）

（石田議長）

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明を頂きました、事業報告に対して質疑をお受けしたいと思います。どなたかございますか。

それでは私の方からよろしいですか。大学交流事業の中で、多分、南房総の中でもこれだけ大学と関係がある市町はないと思うんですね。そんな中で、鴨川としてはそれを社会教育に取り込んでいくというのは、大きな力になると思うのですが、参加者の動向ですとか、広報について伺いたいのですが、というのは、目測通り、予定通り人が集まっているのか、その辺についていかがでしょうか。

（事務局：鈴木係長）

それでは、大学交流事業につきまして、周知・お知らせの方法でございますけれども、まず『おもしろ科学実験教室』につきましては、大学交流事業の中でも非常に大きいイベントで、歴史もあるものでございます。これにつきましては、毎年多くの参加を頂いておりまして、予想以上の参加者を得られております。市内の全小学生に申込用紙を配布し、安房の各小学校にもご案内しており、実際、キャンセル待ちが出るほどの人数の参加を頂いております。これにつきましては、実験に当選しなかった子や、応募のなかった子ども達にも、市の職員、また、長狭高校の化学部等のご協力を頂きまして、申し込みがなくても1日遊べる、1日体験ができるというコーナーを作りまして、本来であれば、実験教室に参加をして頂きたいところですが、それ以外の実験も多数用意して、1日遊んで頂けるという形でやっており、これにつきましては、かなり予想以上の参加者が集まっているところでございます。

あと、大学に実際に訪問して、大学を案内して頂く『キャンパスツアー』につきましては“広報かもがわ”ですとか、新聞等でお知らせをしまして、市民、大人が基本的に対象になるわけでございますけれども、そこそこの参加者を集めているところですが、ご覧のとおり、3ページの1番下段に書いてあります通り、早稲田大学のキャンパスツアーにつきましては、正直なところ、近年減少傾向にあるのかなと考えられます。この背景といたしましては、東大のキャンパスツアーにつきましては、参加費1,000円で保険料とかそういったものなのですが、現地での昼食が実費で、学生と一緒に学食を利用できるということが最大のメリットで、安くお昼が食べられるというところがポイントとしてあります。反面、早稲田大学の方はですね、教職員が使う、ちょっと高級なというか、ワンランク上のレストランの様なところで食事をする関係で、その分が少し高くなっているところで、その参加費の違いもあるのかなというところもありますし、まあ、早稲田大学のキャンパスツアーの方が少し長くやっておりますので、多くの方がご参加を頂きつくした感もあるのかな、というところもあります。今後少し検討が必要ではないかなと思っております。

また東洋大学と早稲田大学の講演会につきましても、生涯学習課でその時々合った、また市民の皆さんが関心を持ちそうなテーマを大学にお願いするところもあるのですが、いかんせん、先生のご都合もありまして、こちらが希望するテーマでないことも正直あります。また、日程的な問題、こちらが希望する日に先生の都合が合わな

いとか、そういった背景もありまして、テーマによっては多く集まる時もありますけれども、時期によっては少し少なくなってしまうというところもありますが、比較的多くのご参加を頂いておりまして、「是非また色々なお話を聞かせて頂きたい」という声を頂いておるところでございます。

全体を通しまして、部分的に見直さなければいけないところもありますが、また継続してやっていければと思っています。

また、昨年度のこの社会教育委員会議でご提言がありました、亀田医療大学、市内で学生が通っている大学が折角あるので、そことの交流はどうかのかなということでご提言頂きまして、昨年度から、まだ事務レベルではありますけれども、少し何かいいものを作って頂けないかということで、大学の方へお願いをして、今調整をして近々にはできるように、準備を進めているという状況でございます。

以上でございます。

（石田議長）

ありがとうございました。

皆さんの方から何かございますでしょうか。

（鈴木委員）

東京大学と早稲田大学のキャンパスツアーなんですけれども、参加人数がここに記載されているのですが、どういった方が参加されているのかっていう情報をお伺いしたいのですが。

（事務局：鈴木係長）

平均すると、比較的高齢の方が多く、男女比でいいますと女性の方が少し割合が多い感覚を得ております。中には高校生等も連れて行っていいのではという意見もあるのですが、今のところ大人の方で実施をしているところでございます。

（事務局：野田教育長）

大学がやる高校生向けの“フリーキャンパス”とは、ちょっと違うんですね。

（鈴木委員）

違うんですね。分かりました。

（石田議長）

他にございますか。

なければ、報告1『平成26年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業報告』を終了させて頂きたいと思います。

《報告 2：平成 27 年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業計画について》

（石田議長）

それでは続きまして、報告の 2『平成 27 年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業計画』につきまして事務局より説明をお願いいたします。

●説明

- ・ 鴨川市の生涯学習及び社会教育関係予算（入江課長補佐）
- ・ 社会教育係及び青少年係関係（加藤社会教育係長）
- ・ 文化振興室関係（石川文化振興室室長兼課長補佐）
- ・ 図書館関係（洲永主査）
- ・ 公民館関係（四宮主査）
- ・ 社会教育関係事業補助金交付計画（加藤社会教育係長）
- ・ 社会教育関係事業補助金交付計画【文化振興室】（石川文化振興室室長兼課長補佐）

（石田議長）

ありがとうございました。

生涯学習関係の事業計画について、説明がございました。それでは質疑に入らせて頂きます。この件について、皆さんからご質問がありましたらお願いします。

（鈴木委員）

多分、鴨川市の大きな課題の 1 つの中には、他所からの転入者を増やすと、それを以って人口増加に繋がっていく、ということがあると思うんですけども、例えば私なんか住民票がまだ東京都にあるのですが、ふるさと納税という形で、鴨川市に若干貢献させて頂いているんですけども、やっぱり鴨川にあまりゆかりのない者がですね、例えば東京に住んでいる人達とかが、鴨川に居を構える、居を移す、或いは別荘という形で鴨川と関わっていくということを考えた時にですね、やはり私なんかは鴨川という町がこれまでどういった歴史を辿ってきたのか、それから、鴨川という場所がどういった魅力があるのかということを、いろんな形で知ることができるんですけども、もし可能であればパッケージみたいな形で、そこの講座を受講すれば鴨川のことがよく分かるみたいな、そういう機会があると非常に助かるな、と常々思っているのですが、今発表された計画の中にはそのようなものはなかったと思うので、ご質問させていただきます。

（事務局：石川室長兼課長補佐）

確かに、市外の方が最近鴨川に転居されてこられる方も増えてまして、やはりそういう方は鴨川市に対する興味は高いんですね。どちらかというと、ずっと鴨川市で生まれ育っ

た人よりも移ってきた方のほうが、鴨川ってどんな所だろうという意識は高いように、私が郷土資料館で対応しているとよく感じます。

それに対して、こちらとしては分かりやすい形で、鴨川の歴史に触れてもらうっていうことを考えていく必要はあるかと思います。ただ、どこまでパッケージ化して、短時間で鴨川のことを全部分かるってというのは、なかなか難しいと思います。先ほどご報告させて頂いたように、資料館では年に何回か企画展を開催してます。こちらは展示をするだけではなく、調査の過程で分かった、今まで明らかになってない歴史ですとか、そういうものを積極的に市民の方に、それは元々の市民の方もそうですし、新しく移られてきた方も分け隔てなく、聞きに来て頂ければ公開するようなことはしていきたい、ということは常々考えているんですけれども、後は、例えば小学生対象に、一昨年、5・6年生を対象にした、『鴨川の歴史』という本を作ったんですけれども、子ども達によく分かりやすい形で鴨川の歴史・文化に触れてもらい、理解を深めてもらえるような内容、目的として作ってあります。そういう印刷物ですとか、講座ですとかを、多く市民の方に提供していくことによって、市の歴史に対する理解を深めて頂くということが重要なことではないかと。ただ、それを1年、2年で全て分かるような体制になるかということ、中々難しいのではないかと思います。ですので、気軽にですとか、例えば1時間、2時間で鴨川の歴史を概略でも分かるようなことができるかということ、中々。ただそれは、例えば、生徒の皆さんが資料館を見学頂いて、1時間、2時間ぐらい、資料を見ながら鴨川の歴史について理解を深めてもらうことは可能ですし、それを市民の皆さんが聞きに来た時も、そういう形で対処できるような体制にしようという事は、常々意識しているんですけれども、それに対してどういう風に応えていくかって事はこれからの課題だと思います。

（鈴木委員）

例えば、亀田総合病院に勤務している若手のドクターの中には、私の知り合いも何人かいます。非常に優秀な大学を卒業して、優秀な若手のドクターなんですけれども、彼らなんかは初めて鴨川に居を構えて、亀田総合病院で働くわけですね。医師として。彼らなんかと話をする機会があるんですけれども、しばらく腰かけ的に亀田総合病院でキャリアを積んだらですね、すぐに首都圏へまた戻るということが前提となっちゃっているようなところがありまして、それだと勿体ないだろうと。もうちょっと鴨川という町を、折角住んでいるんだから、仕事をがんばればいいんだけど、住んでいる場所をもうちょっとよく知るとか、愛着を多少持つためにも、この町に暮らす人達がどういう歴史を辿ったのかとかですね、そんなことまで注意を喚起できるようなことがあると、そういう若手のドクターももっともっと、もしかすると亀田を離れないで亀田総合病院のドクターとして、もっとキャリアをどんどん積んでいくという選択肢も当然考えられるんじゃないかと、そうすると、彼等は当然収入も高いですから、納める税金も多いわけで、それがまたいろんな人達を呼んでくるということにも繋がってくると。こういうことがあるのかなというのが1つ。

それから、今のお話を聞いてて、公民館にいろんなイベントがあるじゃないですか。結局これが、すごく、もうある意味揃っていると思うんですよ。これを要するに、どういう

脈付けで、ストーリーで編成していくかだけの話だと思ってまして、既にやろうとされてらっしゃるところに、鴨川をよく知るための素材はあるような気がするんですよね。ただ、それをどうやってストーリーに仕立てるかというところが無いってということなのかなと。五月雨式にやっていくという形のように見受けられまして、そうではなく、1つのストーリーとして鴨川をよく知るための一連の講座っていう形で、既にこうやって計画されているものを繋げていくと、関連付けると、1つのイベントを1つのイベントで終わらせるのではなくて、関連付けていくという所がもっとあるとですね、多分もっと生きてくるかもしれないなと、思ったわけでございます。

（事務局：野田教育長）

貴重なご意見ありがとうございました。

ここに『鴨川歴史の小径』というパンフレットがございます。今これは置いてあるんですけども、「もっと詳しく知りたい方は、郷土資料館にどうぞ」とか、そういったリンクしてね、もっとこういったものをパンフレットも活用、ホームページとか、そういった面での活用、今、鈴木委員さんが1つのストーリー、鴨川のストーリー、魅力的なストーリーを外に発信していくと。これもやっぱり生涯学習課文化振興室絡みになるのかな。

まあ鴨川市の場合には観光産業とも繋がりますし、そういった面でストーリーを作っていくと、石田議長さんが取り組んでおります『大山千枚田』も、あれは昔からの歴史を、そういったものを今に繋げていった、そういったいろんな資料もたくさんありますので、外に発信していくというのも、うちだけじゃなくて他の部局とも協力しながらやっていきたいと思っております。ありがとうございました。

（鈴木委員）

ありがとうございます。

（石田議長）

他に質問ございますか。最後に1つだけよろしいでしょうか。

各小学校区で、例えば『大山のあゆみ』とか、今年、東条のがありましたよね。まだ、作ってないところってあるんでしょうか。

（事務局：石川室長兼課長補佐）

はい。各旧小学校区別に分かりやすくまとめたものを順次発行しているんですけども、今年度発行されるのは、江見地区が発刊されます。その後は、西条と主基地区ですかね。すみません。今年発刊されるのは、吉尾地区です。吉尾は昔の古い村史という形だったので、ちょっと読みにくかったので今回新しく作ると。その後は、江見地区と西条が残ります。

（石田議長）

ありがとうございました。他に質問ございませんでしょうか。

（川名委員）

はい、すみません。予算のところなんですけれども、1つだけよろしいでしょうか。歳出の方で、資料の2ですかね。社会教育総務費のキャンプ場管理運営事業 12,704,000円。これは今まであった嶺岡のキャンプ場を廃止する、処分代というか、撤廃するというか、取り壊すための費用がこれということなのでしょうか。

（事務局：石井課長）

はい。その件につきまして、私の方から答えさせていただきます。嶺岡キャンプ場は、昭和56年に県が鴨川の吉尾の細野地区という所に、県営のキャンプ場としてオープンいたしまして、その後、平成17年に市が県から無償で譲り受けをいたしまして、平成17年以降、市営という形でキャンプ場を運営しておりましたけれども、如何せん、施設の方もですね、段々老朽化をして参りまして、平成21年度に簡易水道設備が故障をしてしまいました、安定した水の給水ができなくなってしまったということで、それを修繕するにも多額の費用が掛かるという形で、平成22年度から休止をさせて頂いておりまして、それまで、利用者の方も伸び悩んでおりまして、オープン当初は利用者があったんですけれども、段々、時代と共にオートキャンプ場というんですかね、そちらの方に人気が移って参りまして、利用者が段々減ってしまったということで、市といたしましても、廃止に向けて県の方と、また地元、利用者団体等と協議を進めて参りまして、ようやく協議が整って、昨年度、議会に条例の廃止案も上程いたしまして、平成27年3月31日を以ってキャンプ場を廃止し、その施設を取り壊すという形で、丁度今、解体工事を進めておりまして、ここに予算を計上させて頂いたというところでございます。

（石田議長）

これは、吉尾のキャンプ場のみということですか。

（事務局：野田教育長）

市の管轄は、吉尾しかなかったんです。

（石田議長）

はい。ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。これで質疑を終了させていただきます。

今報告頂いた計画について、ご承認頂けますでしょうか。

『はい』の声

みなさんの承認を頂いたということで、『平成27年度鴨川市教育委員会生涯学習課事業計画』につきまして承認といたします。

それでは、次の6の議題に入る前に、10分間トイレ休憩をとりたいと思いますので、暫時休憩といたします。

6. 議題

●議件 1：平成 26 年度鴨川市教育行政評価報告書（案）について

（石田議長）

それでは休憩前に続き、会議を進めます。

それでは、6 の議題の『議件 1：平成 26 年度 鴨川市教育行政評価報告書（案）について』の進め方について、事務局より説明をお願いします。

●説明

- ・評価導入の経緯と審議の進め方（入江課長補佐）

（石田議長）

ただ今、事務局から説明がありましたように、導入の経緯及び審議の進め方について、今説明がありました通り進めさせて頂くことで、ご異議ございませんでしょうか。

『異議なし』の声

（石田議長）

それでは「異議なし」ということで、その概要について事務局より説明をお願いいたします。

●説明

- ・平成 26 年度 鴨川市教育行政評価報告書(案)（高橋社会教育主事）

（石田議長）

ありがとうございました。ただ今『平成 26 年度教育行政評価報告書（案）』につきまして説明がございました。これにつきまして、委員の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。これについては、広くご意見を頂きたいという事で、これから暫時休憩に入ります。

（石田議長）

休憩前に引続き、会議を再開いたします。

それではお諮りいたします。『平成 26 年度教育行政評価報告書（案）』の生涯学習課に関する部分でございますが、先ほど、事務局から説明と報告を受けた内容について、全体

としては良とし、語尾等の文言について修正し、まとめることとしてご異議ございませんでしょうか。

『異議なし』の声

（石田議長）

はい、ありがとうございます。

それでは、本件につきましては「意義なし」ということで決定をさせていただきます。なお、まとめる際の、文言の調整などにつきましては、議長にご一任くださいますようお願いを申し上げます。

その他、他に皆様から何かございますでしょうか。

はい。なければですね、長時間にわたりご審議頂きまして感謝申し上げて、議長の任務を降ろさせて頂きたいと思います。

ご協力ありがとうございました。

では、進行を事務局にお返しします。

（事務局：入江課長補佐）

慎重審議ありがとうございました。それでは次第の7、連絡・その他に入ります。

それでは事務局からあるようですのでお願いします。

7. 連絡・その他

連絡（加藤係長）

- ・報酬・費用弁償について
- ・承諾書について
- ・安房地区社会教育委員連絡協議会の役員について
- ・平成28年度全国社会教育研究大会千葉大会について

（事務局：入江課長補佐）

はい、ありがとうございました。

いろいろ行事がありますけども、また一つご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

他に何かございますでしょうか。

それでは、委員の皆様におかれましては、本日、大変貴重なご意見、ご提言賜りまして感謝申し上げます。

以上を持ちまして、『平成27年度鴨川市社会教育委員会議』の全日程を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

8. 閉会

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、
会議録の確認をいたしました。

会議録署名人

鴨川市社会教育委員 鈴 木 淳